

もの言う牧師のエッセー 第152話

「デジタルタトゥー」

去る6月、ミス・ユニバースのタイ代表に選ばれた才色兼備で22歳のウェルリー・ディサヤブット嬢が代表辞退に追い込まれた。原因は彼女自身がかつてフェイスブックに書き込んだ過激な政治的発言で、その後テレビで謝罪したものの誹謗中傷は止むどころか拡大の一途を辿り、家族にまで心労が及ぶに至ってついに自ら辞退を申し出たのだった。

また7月には、サッカーW杯で母国ベルギーを応援する愛くるしい姿が注目され、フランスの大手化粧品メーカー、ロレアルからモデルのオファーを受けた17歳の少女、アクセル・デスピエジェールさんは、普通の女の子から一夜にしてシンデレラへと駆け上がり、一時はSNSで20万件の“いいね”が殺到するほどだったが、やはり自身がかつてSNSに掲載した画像や発言が問題となり、あっという間にブログ炎上、やはり謝罪したが騒動はおさまらずロレアルは契約解除をするに至った。

アルバイトがSNSに画像を投稿した結果倒産したレストランや、リベンジポルノ、高層ビルから画像をばら撒く輩など、全て陰湿なネット上の「デジタルタトゥー」の結果である。それは半永久的に消せず、しかも恐るべきスピードで拡散する。実にそれは人間の持つ罪の恐ろしさを正確に映し出す。だが、それを完全に、そして永久に消す方法が一つだけある。それは

「御子イエスの血は全ての罪から私たちをきよめます。」1ヨハネ1章7節、

とあるように、我ら人間の罪のために十字架上で殺されたキリストの血で洗うのである。そうした者は真っ白なキレイな体になって、肉体が減んだ後も永遠の命が授かることが聖書には記されている。デジタルタトゥーにはある際立った特徴がある。それは、それを引き起こした各人が“安易”にそれを始めたことだ。何かを求めて教会に来る人は少なくない。しかし、自分が実は罪を犯していることを認識する人は非常に稀である。むしろ安易に考えていることが多く、それゆえ罪の為に死んだキリストの価値がピンと来ない。デジタルタトゥーの騒動は、それを改めて教えてくれた。

2014-10-3

